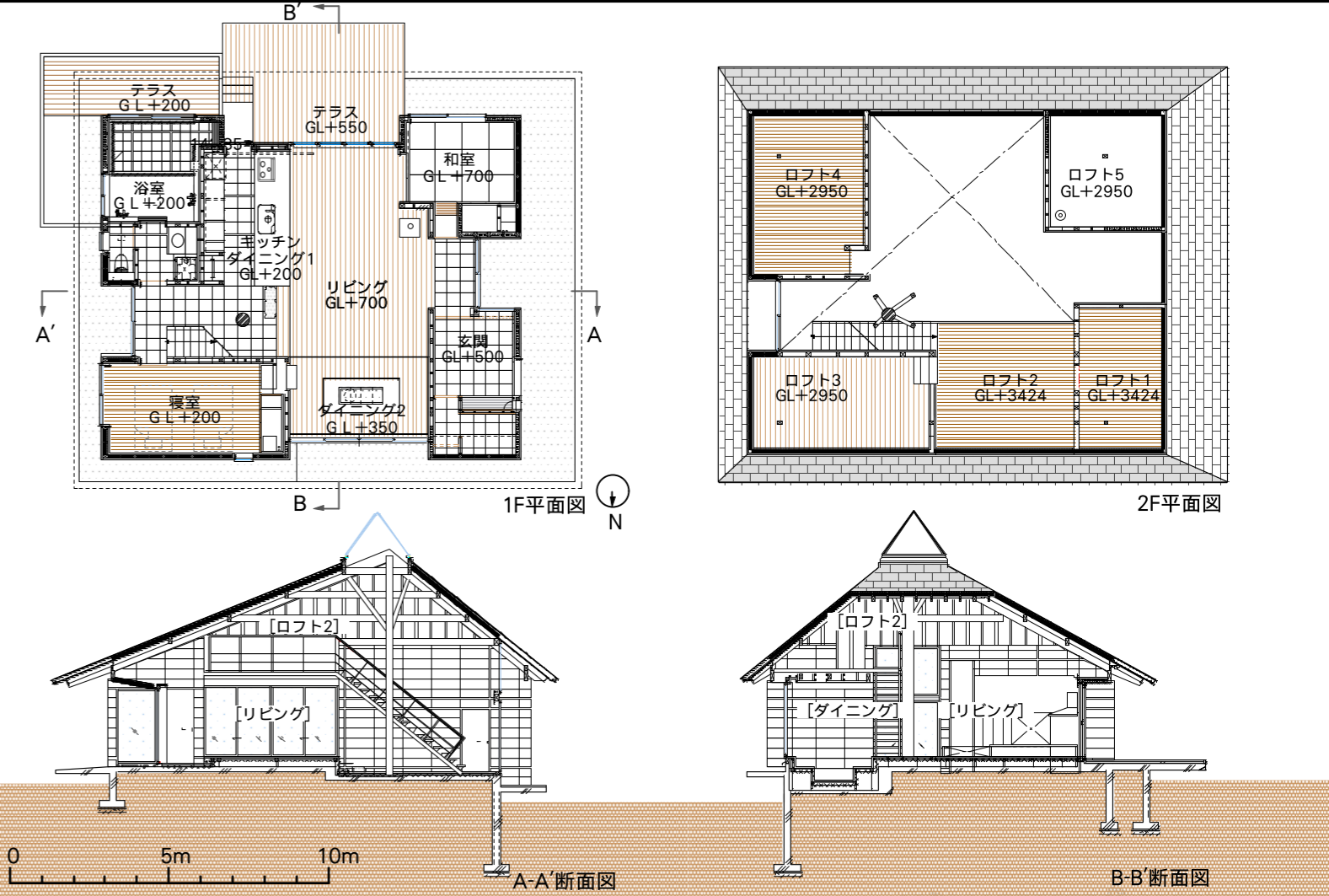


大屋根の別荘

森の中の小高い丘に建つ週末別荘。
大谷石の壁と木の温かみを感じられるこの別荘で、クライアントは、
都会の喧騒から離れ、友人と過ごし、時には独りの時間を静かに過ごす。



■建築構成
この建物は、「大床」「石洞」「大屋根」の3要素で構成されています。立林する木々の中に「大床」を定置します。ここでの大床とは自然環境から生活の場を定めるものとして定義します。大床はコンクリート基礎により建物を支え、室内の床となります。建物は4つの「石洞」（大谷石で出来た四角のボリューム）と「大屋根」で構成します。石洞は洞窟のような開口を設けた、静かな独立性の高い空間を作り出します。

大屋根は、散りばめられた4つの石洞を一体空間として包み込みます。石洞と大屋根の相互に出来た空間はそれぞれの位置で異なった空間となります。屋根高さの重心をずらすことで2Fロフトの天井高さを確保し、テラス、軒下空間や外部空間への広がり強調しています。重心のトップライトから柔らかな光が吹抜け全体に降注します。

■素材
壁の素材には周辺環境に馴染みやすい、大谷石を使用しています。垂木現しで杉板を用いた天井材、ちょうな仕上げの杉フローリングの床材と共に全体的に自然素材の温かみを感じられる空間となっています。木の架構は、口字型に母屋（梁）を設け垂木を現しにすることで、屋根架構の奥行きを強調しています。構造材を接合する金物を梁内部に埋め込むことで、構造材の力強さと明快さを強調しています。

